

日々新聞

第 七 二 号

信政三代
子才八代重

信政七

大及房下難波村鉄眼寺の
 老僕(おやう)の毒(どく)ハ三十年の春をたのしみ
 寺の小僧(こそう)と文(ぶん)りて夫(つま)の子(こ)を運(た)もよ渡(わた)りて
 事(こと)まて夫(つま)婦(つま)離(り)別の相(あ)談(だん)とてのひ後(ご)小僧(こそう)を
 還(かへ)俗(ぞく)させ二世(にせい)と契(きぎ)り中(なか)より入(い)力(りき)車(ぐるま)夫(つま)の
 移(うつ)りて月(つき)日(ひ)ハ一月(いちげつ)七日(ななひ)のよ小僧(こそう)のるま、
 老僕(おやう)來(き)り有(あ)血(ち)を云(い)ふ魚(い)削(ぎ)庵(あん)丁(てい)を出(で)す
 女(おんな)を空(そら)かゝるまてさま折(お)りて
 小僧(こそう)外(ほか)より歸(かへ)り庵(あん)丁(てい)を取(と)り上(あ)げ咄(は)末(すえ)
 を聞(き)けを老僕(おやう)が小兒(こども)顔(かほ)を
 見(み)ふ來(き)ちをサ(さ)がまけあ
 見(み)せぬあふ及(およ)びと云(い)ふ
 つかひ入(い)るサ奇(き)り長(なが)の
 説(せつ)論(ろん)かゝるふまび場(ば)の老(らう)人(にん)の
 眼(め)みを
 云(い)ふ小(こ)鬼(おに)の
 一(いち)条(じょう)をいふまき塔(たか)と

信政七

